

令和7年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立花園小学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・7年5月16日】

授業作り	重点	○タブレット端末を活用した授業づくりの工夫及びデジタルドリルの活用を行う。 ○デジタルドリルや東京ベーシック・ドリルを活用し、基礎・基本の定着のための指導方法の工夫を図る。
環境作り		○授業のユニバーサルデザイン化を図り、主体的・対話的で深い学びを推進する。 ○タブレット端末等も活用して、毎日の家庭学習を定着させる。 ○図書環境を整え、読書指導を通して語彙力の向上を目指す。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		- 基本的な学習内容の定着 - 意欲的に授業に取り組む児童の育成 - 進んで読書に取り組む児童の育成	① ひらがな・カタカナ・漢字の繰り返し練習 ② 数の概念の育成と、計算練習の重点的な取組 ③ 児童が意欲をもてるような課題の提示 ④ デジタルドリルの活用 ⑤ 図書館司書との連携
2 学 年		- 漢字や計算などの基礎・基本の定着 - 文章読解力の育成 - 全員参加を目指した授業づくり - 進んで話したり聞いたりする主体的態度の育成	① 漢字・計算の繰り返し学習 ② デジタルドリルの活用 ③ デジタル教材の活用 ④ ペア学習やグループ学習による話す・聞く力の定着
3 学 年	- 新宿区学力定着度調査の結果において、国語は区平均に届いていないので、基礎学力の定着が課題であることが分かる。 - 算数は、新宿区学力定着度調査の結果において、基礎は区平均を上回っているが、応用は区平均に届いていない。応用力を高めていくことが必要であることが分かる。	- 語彙を増やし、言葉のまとまりを理解する力を育成する。 - 自分の考えを式・図・言葉を使って順を追って説明できるようにする。 - 基礎的・基本的な思考力を育てていく。	① 音読、漢字の繰り返し学習 ② 新出漢字を使った文作り ③ 国語辞典を使つての意味調べ ④ デジタルドリルの活用
4 学 年	新宿区学力定着度調査の結果において、特に書くこと、読むことを求める問題への正答率が区平均を下回っているため課題がある。	基礎・基本の習得を図ると共に、話したり、書いたりというアウトプットの活動を取り入れ、思考・判断・表現の力も伸ばしていく。	① 漢字・計算の繰り返し学習 ② デジタルドリルの活用 ③ グループの話し合い、学び合い学習ができる力の育成 学習の振り返りによる自己肯定感の向上

	算数は新宿区学力定着度調査の結果において、平均を上回っているので、引き続き学力を定着させていく必要がある。	算数では、既習事項を活用しながら考えを導き出す活用力、応用力を育むことにも力をいれていく。	
5 学 年	- 新宿区学力定着度調査の結果において、国語、算数ともに区平均を下回っている。基礎・基本の定着が課題である。 - 国語では、書くこと、読むことは区平均を大きく下回っているのので、そのことを意識しながら取り組ませる必要がある。	- 語彙数を増やし、読解や文章を書くときに活用できる。 - 基礎・基本の定着が低い児童は、答えや助けを待ってしまう傾向がある。スモールステップの学習を取り入れ、段階的に自分の考えや意見を表現できる児童の育成を目指す。	① 漢字・計算の繰り返し学習 ② 国語辞典を活用しての意味調べ ③ デジタルドリルやアプリの活用 ④ グループでの話し合い活動の充実、学習始めの既習事項の振り返り、学習終わりの対話的な振り返り場面の設定
6 学 年	- 新宿区学力定着度調査の結果において国語と算数は、基礎・応用ともに区平均よりも正答率がかなり下回っており、基礎・基本の定着が課題である。 - 新宿区学力定着度調査の結果において、特に書くこと、読むことを求める問題への正答率に課題があることが分かる。	- 繰り返し学習を行い、基礎・基本の学習内容を定着させる。 - 国語の文章や算数の設問を正確に読み取るために、語彙を増やすとともに読解力を高める。 - 分数や小数の計算を苦手になっている児童がいるので、継続的に計算の練習を重ねていく。	① デジタルドリルを活用した漢字や計算等の繰り返し学習 ② グループ学習や一斉学習による、多面的・多角的な問題理解と問題解決 ③ 自分らしい表現を用いた学習の振り返りによる自らの学習状況の把握の向上 ④ 国語辞典を活用しての意味調べ、デジタルドリルやアプリの活用
特 別 支 援		- 語彙力を増やす。 - 話し合い活動等、児童同士の学び合いの場を設定する。 - 基礎基本の定着を図る。 - 社会的な自立を図る。	① 個別指導計画と個別支援計画による個に応じた指導の展開 ② 休みの日の出来事や自分の意見等を発表したり友達の意見を聞いたりする言語活動 ③ 週1回程度の話型をヒントにした話し合い活動 ④ タブレット端末のアプリやワークシートを使った個別最適な学習、家庭と連携したスモールステップによる既習事項の定着